



ヘルスケアAXの推進について

令和 8 年 8 月 5 日
厚 生 労 働 省

Ⅱ．17の戦略分野における官民投資の促進

２．62の主要な製品・技術等の官民投資ロードマップの実行

（１）ＡＩ・半導体

①フィジカルＡＩ（特にＡＩロボット）

i) 重要性

フィジカルＡＩの重要性が高まる中、ＡＩをロボットに実装したＡＩロボットを中心に市場が拡大し、2040年に約60兆円に達するとの予測もある。構造的な人手不足の解消を通じて供給ボトルネックの解消に貢献することが期待される中で、産業競争力や経済安全保障の観点から、国内の生産・技術基盤の確保が急務である。

ii) 勝ち筋・方向性

製造業等の豊富なデータや産業ロボット等の技術基盤をいかし、ロボット・主要部品・ＡＩモデルの開発を進めるとともに、注力産業を特定して潜在需要を顕在化させることで国内市場を創出し、国内の生産・技術基盤の構築につなげる。

iii) 主な目標

・ＡＩロボットについて2040年に世界シェア3割超、20兆円の市場獲得を目指す。

iv) 主な施策

・国産フィジカルＡＩモデル開発やデータ整備等を通じたロボット基盤モデルの開発能力強化や、ロボットOEMの育成、重要部品の設計・製造能力強化に取り組む。

・市場規模、ニーズ等を踏まえ選定した18分野¹の導入目標と支援策を整理した「ＡＩロボティクス実装ロードマップ」に基づき、必要な支援や制度見直しを実施する。また、ロボットを導入し、データ収集、検証、標準化、人材育成を同時に進める社会実装のハブとなるＡＩロボティクスのCenter of Excellenceを創設する。

1 製造業（多品種少量生産）、造船、物流（倉庫・輸配送）、建設・土木、建築、インフラ保守、小売、宿泊業、飲食・食品製造業、医療、介護、警備業、農業、林業、廃棄物処理業、災害対応、警察活動、防衛。

Ⅱ．17の戦略分野における官民投資の促進

2．62の主要な製品・技術等の官民投資ロードマップの実行

（1）A I・半導体

③バーティカルA I（領域特化型A I）

i）重要性

バーティカルA Iの国内市場は2030年に約3兆円との予測もある。現場知見をデータとして集積しA Iに活用することで独自の価値創出が可能であり、エージェント型A Iの浸透や経営改革による付加価値創出も期待される。バーティカルA Iの活用はフィジカルA Iの開発利用にもつながる。一方で、他国への過度な依存は、データの海外流出やデジタル赤字拡大に直結するため、自律性の確保が急務である。

ii）勝ち筋・方向性

重点領域²の領域別戦略を策定し、人材を含めA I基盤や研究開発・実証への集中投資と、政府調達や制度改革による初期需要創出を一体的に推進する。各領域でのA X推進、A Iの導入と開発の好循環を進め、バーティカルA Iの中核拠点となる。

iii）主な目標

・2030年に世界で5兆円以上のバーティカルA I市場の獲得を目指す。

iv）主な施策

・バーティカルA Iの導入・開発・利用を支えるA I基盤の整備、研究開発、実証、データ創出を進める。AI for Scienceの推進、研究開発の担い手や実装人材の育成・確保、世界から優秀な「知」が集まる機能の創設に取り組む。中小企業や地域のA Xも促進し、政府の率先導入と制度改革により、初期需要を創出する。

・AISIの機能強化や偽・誤情報対策などA Iリスクへの包括的対応を強化する。知財・標準化戦略やODA等による同志国・グローバルサウス等との連携を推進する。

2 市場性の観点からは製造、物流・交通、情報通信、金融、創薬を、公共性の観点からは医療・介護・福祉、農林水産、建設、教育、行政、エネルギーを、戦略性の観点からは防衛、警察、防災、消防、サイバー、海洋、宇宙、科学研究を領域として選定した。

（11）創薬・先端医療

①ファーストインクラス³⁸製品^{*1}・ベストインクラス³⁹製品（医薬品、再生医療等製品）

i）重要性

世界の医薬品市場は2022年に約200兆円の規模であり、ファーストインクラス製品・ベストインクラス製品を含む特許品の世界市場は年平均9.6%で拡大している。同製品の供給確保を通じ、治療法が未確立の疾病にも対処することは、国民の健康の維持や健康医療安全保障の実現に直結する。

ii）勝ち筋・方向性

基礎研究力や高品質な治験の強みをいかし、実用化を担う人材の育成や、スタートアップ・国際共同治験における資金・制度面の課題解消を図り、創薬シーズ創出から実用化まで一気通貫で進める環境を整備し、「世界直行型」の開発を実現する。

iii）主な目標

- ・我が国の医薬品市場の魅力度向上に向け、我が国の特許品の市場規模について、特許品の世界の成長に比肩する成長を目指す。
- ・我が国企業の特許品市場規模について、世界市場と同水準の成長の実現を目指す。

iv）主な施策

- ・実用化を担う人材の育成や流動化を支援する。カーブアウトシーズの活用や投資の呼び込み、製薬企業とのM&A支援など、スタートアップ支援を強化する。
- ・免疫・再生医療等の基礎研究力強化、国際水準の治験実施体制整備、AMEDによる大学と製薬企業との橋渡し・実用化推進、難病・希少疾患領域の支援、A I やデータ利活用による研究開発プロセスの高度化・効率化、新薬の国際展開を図る。
- ・患者アクセスの改善に向け革新的新薬のイノベーションの更なる評価を検討する。

38 全く新しい作用で世界で初めて承認されるもの。

39 同じ作用の製品の中で有用性が最も優れるもの。

参 考 資 料

デジタル社会の実現に向けた重点計画

ひと、暮らし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

デジタルにより目指すべき社会の姿と推進方針

- 目指すべき社会の姿: 「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会」
- このような社会を目指すことで「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化」につなげる。

6つの推進方針
は引き続き維持

① デジタル化による成長戦略

② 準公共分野のデジタル化

③ デジタル化による地域の活性化

④ 誰一人取り残されないデジタル社会

⑤ デジタル人材の育成・確保

⑥ DFFTの推進を始めとする国際戦略

- AI等のデジタル技術やデータが加速度的な変革をもたらす中、ルールや組織も変化を前提にした「責任あるアジャイルガバナンス」を目指す。

第1 目指す社会の姿、取組の方向性と重点的な取組 (本文)

これまでの主な取組

～個人・法人の認証基盤など基盤整備が進展～

① 行政(国)のDX基盤強化

- ・ガバメントクラウド・GSS整備
 - 約7万の職員が利用(2026年3月時点)
 - 国内クラウド事業者を採択
- ・サイバーセキュリティ高度化
 - 政府システムの横断的監視(総合運用・監視システム(COSMOS)の整備・運用)

② 行政(自治体)のDX基盤強化

- ・標準化・ガバメントクラウド移行
 - 2026年3月末時点で大半の対象システムが標準化移行完了、特定移行支援システムについても継続的支援
- ・自治体フロントヤード改革推進
 - 自治体向け手順書作成、人的支援等

③ 国民の暮らし・地域

- ・マイナカード普及・利用拡大
 - 人口の約8割が保有、官民での利用拡大
- ・マイナポータル整備
 - 2026年3月時点で約8,500万人が利用登録
- ・準公共分野のデジタル化
 - 病院向け電子カルテ標準仕様策定、防災DFFT構築

④ 事業者・経済成長

- ・GビズIDの普及、Gビズポータル実証版
 - 約1/3の法人がアカウント取得(2026年3月末時点)
- ・DFFTの推進
- ・アナログ規制の見直し
 - 99%の見直し完了(2026年5月時点)

我が国が直面する課題

① 人口減少・人手不足と自治体におけるリソースの逼迫

- ・特に地方での人口減少・人手不足が深刻
 - 生産年齢人口は2050年までに▲25%(25年比)
 - ⇒ 大幅な生産性向上、国民の利便性向上が必須
- ・AI社会におけるデジタル人材が不足
 - 2040年にはAI・ロボット等利活用人材が約340万人不足との推計
 - ⇒ 行政機関・企業等での人材育成が必要

② 生成AI・AIエージェントなどの新技術の急速な進展と経済成長の期待

- ・生成AI・AIエージェントの急速な進展を踏まえ、セキュリティに配慮しつつ最大限活用していく必要
 - 世界の生成AI市場規模は2030年に50兆円以上と推計(2022年: 約2兆円)
 - ⇒ 利活用促進を通じ経済成長につなげる必要

③ 安全保障環境の変化やサイバー空間の脅威増大などリスク要因の高まり

- ・地政学リスクの高まり
- ・サイバー空間における質・量両面での脅威の増大
 - サイバー攻撃関連の通信数は2015年から2024年にかけて約11倍
 - (参考) Claude Mythos(2026年4月公表)
 - ⇒ サイバーセキュリティ対策の向上が緊急の課題

今後の取組

- DXも活用しつつ、AIの利活用を一体的に推進するAX※(AX/DX)
- AIエージェントの徹底活用を通じた「自律型」「提案型」の行政サービスの実現(「AI駆動型国家」)
- 我が国の自律性向上に向けた政府による初期需要提供(成長投資)
- サイバーセキュリティ向上など(危機管理投資)

課題解決や情勢変化対応のための4つの柱

国のAX/DX基盤の
高度化・強靱化自治体のAX/DX基盤の
高度化・強靱化国民の暮らしのAX/DX推進
(安全で便利な地域の暮らし)AX/DXの徹底的推進による
経済成長の加速

横断的取組

サイバーセキュリティの向上

デジタル人材の確保・育成

デジタル・AIへの受容性

デジタル行政推進体制整備

※あらゆる組織で、AIを前提として意思決定や業務の進め方を根底から見直すこと

令和8年「デジタル社会の実現に向けた重点計画」(概要) — 個別施策

社会課題解決に向けた「4本柱」

I 国のAX/DX基盤の 高度化・強靱化

～強靱で効率的な国家運営を支える基盤構築

①政府のAX/DX基盤(ガバメントクラウド・GSS等)の高度化・強靱化

- セキュリティや耐災害性・利便性向上等

②政府におけるAX/DXの推進

- ガバメントAI源内の推進
- 政府内のAI・AIエージェント利活用に係るガバナンス強化(ガイドラインの改訂等)
- 政府調達に係るガイドライン群等の改定(「AI駆動開発」の推進)
- 国民・企業のAIエージェントによるデジタル庁システム等へのアクセス(MCP等)の検討

③ベース・レジストリの整備・利活用促進

- 法人・不動産・アドレスに係るベース・レジストリの整備・利活用促進
- 法規的告示のデータ提供開始等

④「公正」「公平」「迅速」な給付が可能なインフラ構築

- 「デジタル敗戦」を踏まえ、平時・非常時の国による直接の給付も可能とするインフラ構築に2026年度から着手(情報提供NWS、給付支援サービス、公金受取口座システム、ADAMSII等)
- 新たな給付施策については公金口座の保有を前提とする制度設計

⑤外国人政策を支える情報基盤

- 社会保険・税等の納付状況等を在留・入国審査に活用(入管庁では出国時の活用も検討開始)

II 自治体のAX/DX基盤の 高度化・強靱化

～住民が行政サービスを適時にワンストップで享受でき、職員負担も軽減される基盤構築

①自治体基幹業務システムの標準化・ガバメントクラウド移行の推進

- 運用最適化、所期効果の可視化・横展開、特定移行支援システム移行支援

②標準化に係るこれまでの取組の課題検証

- 2021年自治体情報システム標準化法

③AIエージェントを利用した「自体型」「提案型」行政サービスの実現

- 自治体向けソフトウェア(公共SaaS)の効率的な開発を可能とするベンダー向け開発基盤の検討(認証IDやデータ形式等を初期設定)
- 自治体フロント・バックヤード、業務システム相互間の申請情報等の自動連携(手続ワンストップ化)
- 給付や介護など制度のRules as Code推進

④国・地方を通じた全体最適かつ効率的なネットワーク、ゼロトラストアーキテクチャの導入支援

⑤連絡協議会を通じた国・地方デジタル共通基盤の整備・推進

III 国民の暮らしのAX/DX推進 (安全で便利な地域の暮らし)

～官民の手続やデータ連携を円滑・安全に行い、質の高い医療など準公共サービスを実現

①マイナカードの着実な普及・利用拡大、マイナポータルの利便性向上

- マイナカード(保有枚数はR7年度約46%)の官民での活用推進(「使うことが当たり前」の社会を目指す)
- スマホ搭載、次期マイナ、外部AIエージェントとのセキュアな連携に向けたMCP構築、マイナアプリ、モバイル運転免許証検討等

②正式版Gビズポータル構築・機能向上

- 電子ロッカー機能拡充、Jグランツ・e-Gov連携等

③医療DXの加速

- 電子カルテ本格導入、クラウドネイティブ型システムの普及等

④E2E等最新自動運転車両の社会実装・量産化加速

⑤こども・子育て・教育DX

- 安全・主体的にAI活用が可能な学習環境構築等

⑥防災DX

- 新総合防災情報システム(SOBO-WEB)とLアラートの連携等

⑦各分野DX

- 税務、農業、行政、空き家、不動産、地域交通、建築・都市

IV AX/DXの徹底的推進による 経済成長の加速

～政府AX/DX基盤の自律性を強化

①(内外のLLMを柔軟に組み合わせ)AIソプリンティ確保、政府が初期需要を提供し国産推進

- データ・計算基盤・モデル・運用の各層で自律性・代替性・耐遮断性を確保
- このため、内外のLLMの性能等評価、モデル選択を可能とする基盤の開発
- 国産クラウドを政府が率先利用し国内事業者の技術力育成、暗号鍵も国内で生成
- 官民のPQCC移行(デジタル庁において国産機器の初期需要の提供に係る検討及び移行ノウハウの取得)
- OSS利用を推進し政府システムの自律性、経済性向上(府省庁初のOSPO)

②AI等の基盤構築に向けた民間投資

- 先端・次世代半導体の国内開発・製造能力確保及びワット・ビット連携によるデータセンターの立地環境確保、国産マルチモーダル基盤モデル開発、オンチェーン金融の推進等

③データ連携・利活用を促進する環境整備

④政府認証基盤を始めとする政府情報システムの安全性・信頼性向上

⑤国際戦略の推進(DFFT、ガバメントAIの国際展開)

※オープンソースソフトウェア

上記を支える横断的取組

A サイバーセキュリティ

～行政機関、病院等重要インフラ、中小企業等におけるサイバー空間の脅威対応を支援～

①AI性能の高度化を踏まえたサイバーセキュリティ対策の向上

- 「Project YATA-Shield」の推進等

②政府システム等の対策強化

- サイバー攻撃情報のデータベース化とAI検知・分析の導入(COSMOS)等

③自治体のサイバーセキュリティ対策

- サブライチェーン・リスク対策等に係る総合相談窓口等

④医療機関・中小企業等のサイバーセキュリティ対策

- 病院・個別システムの外部接続点の管理体制構築支援、セキュリティ製品等の国内供給力強化等

⑤セキュリティ人材の確保・育成

B デジタル人材の確保・育成

～デジタル・AI・セキュリティ人材の養成を加速～

①「230万人目標」の達成状況を踏まえた次期目標の策定

②AI・デジタル人材の確保・育成

- デジタル人材スキルプラットフォームの整備・拡充を通じた労働市場との接続、国内外からトップ人材を含めたAI研究者・開発者の確保、デジタル分野の学校カリキュラム高度化

C デジタル・AIへの受容性

～誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化の実現～

①デジタル推進委員の活動促進

②郵便局を活用した地域の持続可能性確保

③なりすまし広告詐欺対策の強化

④インターネット上の偽・誤情報対策

⑤サイバー犯罪の防止

⑥サイバーハイズーンの推進及びアクセシビリティの向上

- 政策・プロダクトに関するサイバーハイズーンの推進、行政機関への利用者視点の浸透

D デジタル行政の推進体制整備

～デジタル庁の司令塔機能の強化～

①デジタル庁の人員・組織体制の強化

- 「デジタル行政改革会議」の事務局機能移管、庁内情報システムの横断的開発支援体制、開発工程におけるAI活用

②AI駆動型国家の実現に向けた政府横断的な法制度等の見直し

- デジタル行政改革会議を「AI・デジタル改革推進会議」に改組し、これを中心として、省庁横断で、法制度やガイドライン等の抜本的な見直し

③政府情報システムの統括・監理の強化

- 費用対効果レビュー強化等、上流工程での認証、データ連携などの共通機能の活用

人工知能基本計画・バーティカルAI領域別戦略

ひと、暮らし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

第Ⅱ期人工知能基本計画（概要）

～日本A X、より強く、より豊かに～

令和8年7月14日閣議決定

基本構想

- ◎急伸するエージェント型A Iに適応し、計算資源や電力から、制度・政策まで日本のA I実装能力を抜本強化
- ◎A Iを前提として意思決定や業務の進め方を根底から見直す「A Iトランスフォーメーション」（A X）を推進
- ◎人が人として創造すべき価値を探求し、「人間力」を増進しながら、「人とA Iが協働する社会」を率先して実現
- ◎「信頼できるA I」で社会全体を駆動し、課題解決と国力強化を探求、日本独自の価値を創出

4つの原則

- イノベーション促進とリスク対応の両立
- 挑戦と学習
- アジャイル（柔軟かつ迅速）な対応
- 内外一体での政策推進

4つの基本的な方針に基づく施策

政府一丸でA X推進に必要な体制を構築、あらゆる制度や運用を先導見直し

1. A I利活用の加速的推進「A Iを使う」：エージェント型A I等の積極適用、政府における率先導入

- 政府・自治体でのA Iの徹底した利活用 ガバメントA I「源内」の進化と普及、地方の伸び代を成長に転換（地域A X）
- A I利活用促進による社会課題解決、新事業創出 バーティカルA I・フィジカルA I中心に社会実装加速
- データ戦略、更なるA I利活用に向けた仕組みづくり 政府・準公共・産業分野でデータ連携基盤構築

2. A I開発力の戦略的強化「A Iを創る」：A I実装能力を高め、「A I主権」を確保する

- A I研究開発・利用基盤の拡充・高度化 国家基盤として計算資源やデータ、安定した電力供給を確保
- 日本国内のA I開発力の強化 データセット創出、内外トップ人材確保、モデル開発高度化、評価基盤・テストベッド整備
- 信頼できるA I基盤モデル等の開発 日本の文化等を踏まえたA I開発・評価、マルチモーダル基盤モデル開発推進
- 日本の勝ち筋の追求 **バーティカルA I（領域別戦略）**、フィジカルA I（A Iロボティクス、自動運転）、AI for Science



3. A Iガバナンスの主導「A Iの信頼性を高める」：A Iエコシステムにおける「信頼」の構築で世界をリード

- 責任あるアジャイル・ガバナンスの実現 AI法を含めた制度等の能動的かつ不断の見直し、Project YATA-Shield
- A S E A N等グローバルサウス諸国を含めた国際協調 AISI機能強化、信頼できるA I共創に向けA Iサミットの早期日本開催

4. A I社会に向けた継続的変革「A Iと協働する」：人が意思決定への責任を持ちながら、A Xで日本を駆動

- A Iを前提とした産業構造・雇用環境の構築 中小企業、地方含むA X推進（取組可視化等）、雇用への影響を調査研究
- A I社会における制度・枠組みの検討・実証 規制・制度改革、人とA Iの責任関係、知財保護・利活用につながる透明性確保
- A I時代の人材の育成・確保 A I実装人材育成・確保、全ての国民のA Iに関するリテラシー向上、リ・スキリング支援
- A I時代における人間力の向上 創造力、批判的思考、判断責任など人間力向上、人とA Iの役割分担の探究

➡ 本基本計画は当面毎年変更、適切なベンチマーク（KPI等）を設定しモニタリング

■ A I 技術の進展

- ・ A I は業務を支援するツールから、意思決定・実行を担う主体へと進化。
- ・ エージェント型 A I が急速に伸長、世界各国で、産業・安全保障含めた広範な分野で業務全体を自律的に回す基盤に。
- ・ エージェント型 A I をいかに社会に実装していくのか、その在り方は経済力、防衛力、技術力といった国力に直結。

■ 我が国の現状と課題

- ・ 世界では、エージェント型 A I を始め先端技術に関する利活用と開発がますます加速。
- ・ 日本でも、現場実務での A I 利活用は加速、開発投資も伸長しているが、組織全体や中小企業、地域での活用に課題。
- ・ 計算資源、電力、人材、データ、制御・管理や制度・政策まで、総体としての A I 実装能力強化が必要。

■ 日本の勝ち筋

- ・ 我が国が持つ現場の力を A I の実装能力としていくために、「バーティカル A I」、「フィジカル A I」に A I 戦略の重点を置き、我が国の課題を解決、独自の価値を生み、世界の課題解決にも寄与。
- ・ A I エコシステム全体の中で、戦略的自律性及び戦略的不可欠性を確保し、開かれた「A I 主権」を確立。同志国等と連携しつつ、戦略的領域において自律性を強化し、耐遮断性・運用能力を確保。現場やハードウェアの力で優位性を創出。
- ・ 産業や行政、国民生活の課題を解決、国力を強化するため、あらゆる組織で、A I を前提として意思決定や業務の進め方を見直す「A I トランスフォーメーション (AX)」を推進。

■ 複雑化・深刻化するリスクへの対応

- ・ A I がもたらすリスクは、エージェント型 A I を始め技術革新が進む中で、複雑化かつ深刻化。
- ・ A I 法等の「制度による対応」に加え、「技術による対応」、「組織管理による対応」に統合的に取り組みながら、「信頼できる A I 」体现のため、「責任あるアジャイル・ガバナンス」に能動的に取り組む。

■ 社会全体での A X に向けて

- ・ 制度や政策について A I を前提として再構築することを含めて A I の実装能力を抜本的に強化し、エージェント型 A I についても日本の「信頼性」を再現する。
- ・ 人と社会との関係を再定義し、判断責任を始め人が創造すべき価値は何かを探究、人が人として生きるための社会の枠組みの構築や「人間力」の増進に率先して取り組む。
- ・ 「信頼できる A I 」で日本を駆動する A X に社会を挙げて取り組む。

バーティカルA I 領域別戦略 中間とりまとめ（概要）

領域設定の考え方

官民の限られたリソースを戦略的に投資し、効果を最大化することで、社会全体のA Xを実現

市場性：現場力のデータ化・集積と領域特化型基盤モデルの開発・実装により、産業構造改革と国際競争力を強化

公共性：官民連携による、A I の徹底活用を通じて、業務の効率化・負担軽減、サービスの質の向上を実現

戦略性：計算資源、データプラットフォーム、モデル、アプリ等の自律性確保により、耐遮断性と運用能力を強化

1. 市場性を有する領域別戦略：産業構造改革、競争力のあるA I システムの創出、海外展開の推進

- **製造領域**：A I ロボティクスや工場等の自動制御A I に貢献するマルチモーダル基盤モデルの開発とデータ連携手法の確立
- **造船領域**：溶接、塗装、曲げ加工等の造船の主要工程を自動化するA I 生産技術システム等の開発・導入
- **物流・交通領域**：物流領域特化モデルの開発と運行管理・遠隔監視・情報管理等に資するデータエコシステムの確立
- **情報通信領域**：通信インフラ等の現場データを連携・活用するバーティカルA I と、A I を支える通信基盤等の整備
- **金融領域**：エージェント型A I やブロックチェーン等を活用した金融ユースケースの創出・横展開の推進
- **創薬領域**：基礎研究から臨床研究、製造工程開発等の創薬の迅速化・高度化に必要なA I 駆動型共用自律ラボ等の整備・運用

2. 公共性のある領域別戦略：A I で人手不足を解消、我が国の供給力の維持

- **医療・介護・福祉領域**：看護記録等の文書作成や福祉相談業務の支援等の現場の負担軽減のためのA I 開発普及
- **農林水産領域**：農林水産・食品産業の生産性向上のためのA I 開発・実装、データエコシステムの構築・開発基盤整備
- **建設領域**：建設機械等の協調領域のデータセット構築とフィジカルA I への活用による建設施工の自動化・省人化の推進
- **教育領域**：深い学び、多様な児童生徒への対応、教師の働き方改革を実現するためのA I の実装・データ整備
- **行政領域**：ガバメントA I を通じたA I ネイティブな業務プロセスへの変革とA I 自律性確保、行政データの機械可読性確保
- **エネルギー領域**：災害対応や設備巡視・点検、系統運用等の協調領域におけるA I 活用に係る業界内連携の推進

3. 戦略性のある領域別戦略：特定の国や企業への過度な依存を解消

- **防衛領域**：防衛力強化の観点から、データ基盤の強化やA I 実装を進め、迅速かつ的確な意思決定を実現
- **警察領域**：匿名・流動型犯罪グループによる犯罪をはじめ、様々な治安課題への対処等のためのA I 基盤の整備・運用
- **防災領域**：被災者一人一人に寄り添った支援や応急対応・復旧対策等の方針決定・遂行支援へのA I 活用の推進
- **消防領域**：災害現場等の状況を即座に分析し、迅速・的確な判断をA I が支援するための研究開発等の推進
- **サイバー領域**：「Project YATA-Shield」の推進、制御系システム等におけるサイバーセキュリティ対策強化
- **海洋領域**：海洋における異常兆候の自動検知やリスク判断を行える領域特化のA I 開発・実装
- **宇宙領域**：地上局を含む宇宙機システム全体の運用を最適化・効率化等、宇宙分野におけるA I 活用の推進
- **科学研究領域**：AI for Scienceの波及や国際・産学連携研究の推進、データ共有強化と研究インフラの一体的構築

A I 実装能力を共有する観点から、現場記録作成や意思決定支援へのA I 活用、A I ・データ基盤の開発や実装、担い手育成を省庁横断で加速

経済財政運営と改革の基本方針2026

第3章 責任ある積極財政に基づく「中長期経済財政計画」

2. 全世代型社会保障の構築

（2）成長型経済に合わせた持続可能な社会保障制度

（創薬・先端医療イノベーション）

… 全ゲノム解析やiPS細胞等を活用した再生・細胞医療・遺伝子治療、免疫治療、小児・希少疾病用医薬品やRI、薬剤耐性菌を含む感染症対応の医薬品等の研究開発・生産等とともに、創薬・医療機器開発・診断へのAI利活用を推進する。

…